



【広島大学の看護学生の実習施設を募集しています！】

2022年4月から、看護師学校養成所のカリキュラムが全国的に変わり、「地域・在宅看護」が強化されます。それに伴って、2年生のピヨピヨのうちから、地域を体験する実習が入ります(1年生の体験実習に近い)。

(学習目的)難病や障害、慢性疾患などを持ちながらも、地域で暮らしている人々の暮らしとそれを支える社会資源と支え方を学ぶ。

(実習する学生)広島大学医学部保健学科看護学専攻2年生

(実習時期)2023年10月～11月にかけて(2023年度から毎年)

(実習方法と内容)①週1日(火曜日か水曜日)、②1カ所の診療所に3人程度の学生が訪問し、③外来、在宅(自宅での生活)、地域連携会議、包括支援センター等地域のキーパーソンらとのかかわりなどを見学(活動に参加できるとよい)

このような実習を受け入れてくださる在宅療養支援診療所や在宅もみておられる診療所を募集します。是非とも協力をお願いいたします。

連絡先: 広島大学大学院医系科学研究科 成人看護開発学 森山美知子

(日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア看護師認定制度委員会委員長)

電話: 082-257-5365 FAX: 082-257-5369 email: morimich@hiroshima-u.ac.jp

【2021年度島根県総合診療県内合同オリエンテーション開催報告】

(文責: 高橋賢史(出雲家庭医療学センター 出雲市民病院家庭医療科))

島根県では、今年度総合診療専門研修を開始された専攻医を対象に県内合同オリエンテーションを開催しましたので報告します。

2021年度島根県総合診療県内合同オリエンテーション

開催日時: 2021年5月29日(土曜日)

開催方法: 対面とwebのハイブリッド形式

主催: 島根県総合診療育成ネットワーク, しまね総合診療センター

島根県ではこれまでも県内独自で総合診療専攻医むけの合同オリエンテーションを開催してきました。今年は、島根県総合診療育成ネットワークとしまね総合診療センターの共催により、2021年5月29日(土曜日)に対面とwebのハイブリッド形式で開催しました。

当日は、今年度総合診療専門研修を新たに開始した7名の専攻医のうち、対面会場で3名、webで2名の専攻医が参加し、他にも先輩専攻医、指導医や県内に9つある総合診療専門研修プログラムのプログラム責任者、内科専門

研修・救命救急科専門研修の専攻医も含め、合計で 41 名の方が参加しました(対面:19 名, web22 名)。

実施したセッションは以下通りです。

- 新専攻医自己紹介
- 記念講演「これから総合診療を始める君たちへ」 講師:白石吉彦先生(しまね総合診療センターセンター長・教授)
- 先輩専攻医に学べ! 研修サバイバル術 講師:坂口公太先生(雲南市立病院総合診療専門研修プログラム3年目専攻医)
- 家庭医療集中授業「患者中心の医療技法」(レクチャー, ディスカッション, 実演)

各セッションの詳細については割愛しますが、今回の合同オリエンテーションを通しオール島根で総合診療専門研修を進めて専攻医を育てていく手応えを感じ取れる機会となりました。新規専攻医たちも心強く感じられたと感想をコメントされています。また、家庭医療学のコア理論の1つである患者中心の医療技法についてセッションを行い、患者中心の医療技法の実践方法や、「共通基盤を見出す事」の重要性を専攻医・指導医とも認識していました。

島根県では、こうした専攻医向けの県内合同企画を 2021 年度は年 4 回実施する予定です。

【新専攻医対象中国ブロック支部合同オリエンテーション】(文責:萩市国民健康保険大島診療所 所長 村井 達哉)

コロナ禍のため、2021 年度 新専攻医対象の中国ブロック支部合同オリエンテーションを、昨年同様オンライン(Zoom)にて開催しました(主管:山口県)。昨年度は 1 日でしたが、今年度は、4 月 17 日(土)13:30~20:00 および 4 月 18 日(日)9:15~12:10 と 2 日間に渡り開催しました(2日目 13:00~16:30 ポートフォリオ発表会も同時開催)。

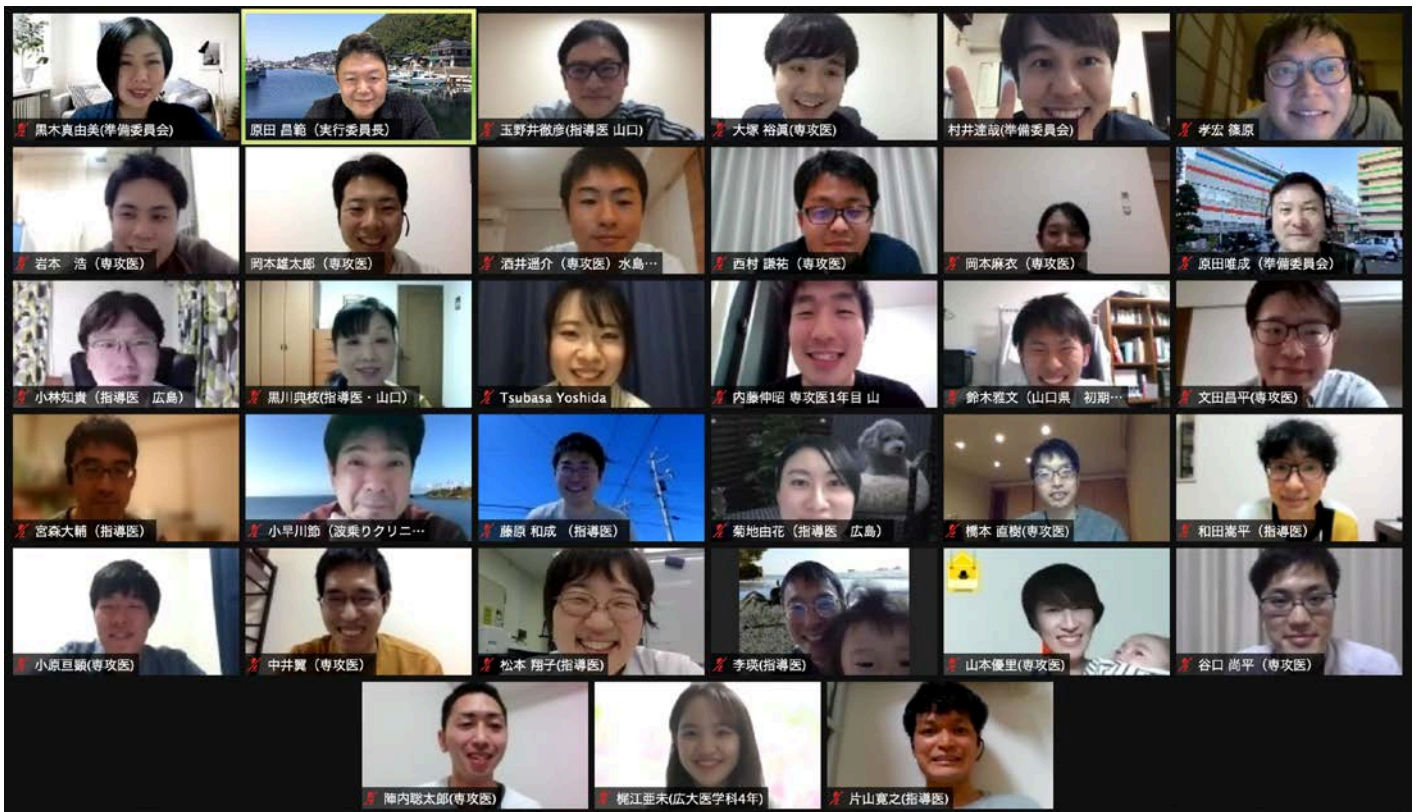
準備委員長の原田昌範先生(山口県支部長)から声がかかり、当初専攻医 3 年目として経験から自分の希望が出せればよいかなという軽い気持ちでしたが、いつの間にか準備委員会の一員(というか幹事的ポジション)となり(笑)、勤務先の異動やポートフォリオ作成の追い込み中、四苦八苦しなながら当日を迎えましたが、振り返れば貴重な経験となりました。

初日、まず JPCA 副理事長/中国ブロック支部長の松下明先生から『新専攻医向けの総論』と題し、ご講演をいただきました。続いて初企画として、プログラム修了したばかりの卒業専攻医による『振り返りならびにプログラム紹介(岡山県・広島県・山口県の計 5 プログラム)』を実施しました。

昨年度、オンラインでは専攻医同士がつながりにくいという課題がありましたので、今年度は、プログラムに加入した新専攻医が、家庭医・総合診療医を目指した理由や、プログラムを選択した理由、将来どういった医師になりたいかなど、5 分間ずつ、顔出しで発表するという『新専攻医の自己紹介』を行いました。おかげさまで平均して約 80 名の参加をいただき、活気に溢れたオンライン合同オリエンテーションとなりました。初日夜の『オンライン懇親会』では、鳥取県・島根県からもプログラム紹介をしていただきました。専攻医同士や専攻医と指導医、指導医同士でも会話ができるようにブレイクアウトルーム機能を活用しました。事前にポスターを作成し、研修指定病院等への配布したことで、医学生や研修医にも参加にもつながり、嬉しく思いました。

2 日目、日本医療福祉生協連合会家庭医療学開発センター長の藤沼康樹先生をお招きしました。ラジオ番組のようなスタイルで、専攻医の事前質問にひたすら答えていただく『専攻医お悩み相談所』は大成功でした。藤沼先生の甘く優しいボイスかつ面白すぎるトークであつという間の 1 時間。専攻医だけでなく指導医にも満足度が高いことをアンケートで確認できました。企画『ロールモデルを発掘しよう』では、山口大学医学部附属病院総合診療部准教授 齊藤裕之先生、出雲家庭医療学センター長 高橋賢史先生、ファミリークリニック加古川 朴大昊先生の御三方に、家庭医・総合診療医として歩んできたキャリアを中心に、過去-現在-未来について語っていただきました。発表スライドには藤沼先生や松下先生も登場し、家庭医療の歴史に触れた感覚になりました。参加した専攻医が将来の医師像をイメージするキッカケになったのではないかと思います。

ご講演や司会進行にご協力いただいた皆様はもちろん、準備委員会のメンバー(原田昌範先生、原田唯成先生、松本翔子先生、岡本雄太郎先生、岩本浩先生、黒木真由美さん)の皆さんにも心より感謝申し上げます。新専攻医の皆さんの益々のご活躍を祈念しています。



【中国ブロック支部 ポートフォリオ発表会報告】

(文責:宇部興産中央病院 総合診療科 松本翔子)

2021年4月18日に中国ブロック支部合同オリエンテーションに続いて、ポートフォリオ発表会を開催いたしました。昨年同様、完全オンライン開催となりました。中国地方5県の各プログラムから合計20演題のポートフォリオが発表されました。発表された領域も多岐にわたりました。

参加者は70名を超え、各地の指導医からのコメントも充実していました。質疑の時間でさらに考察が深まったケースも多かったです。オンライン開催の利点もあり、忙しい指導医の先生方にも参加しやすい会となったようです。

2グループに分かれて発表を行い、それぞれのグループで参加者からの評価を行いました。最優秀賞は、江副一花先生(長州総合診療プログラム)の「アルコール問題を抱える夫婦の危機に対して過去の問題解決パターンにアプローチし関係性を改善することができた一例」、岡本雄太郎先生(長州総合診療プログラム)の「教育は興しろい(おもしろい)！多職種と協力し研修医指導を行い研修医と共に成長した専攻医の事例」でした。優秀賞として、吉田つばさ先生(鳥取の総合診療専門医を育てるプログラム)の「人生の最終段階において、家族を通じた意思決定に難渋

した一例」、杉山新先生(岡山家庭医療センター)の「患者が全うしたい「人生の道」を歩むことができた症例」、中井翼先生(鳥取の総合診療専門医を育てるプログラム)の「看護師を対象にしたアルコール依存症の勉強会を教育プログラム開発アプローチに沿って企画・実施した事例」が選ばれました。

いずれも高い実践レベルと深い自己省察が見られました。各プログラムの中で、専攻医の学びを指導医がサポートし、

ポートフォリオとして完成させていくプロセスが育まれていると感じました。専攻医 1 年目の先生方にとっては、ポートフォリオがどのように作られるのか、イメージを持つ機会にもなったと思います。